

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

2024年2月5日(月)

活動隊員：宮前繁、田中加苗

1. 活動日時

2024年2月5日(月)0時～24時

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

避難所使用者数 35人(一時避難者あり) 20世帯

3. 石川県の被害状況(2月5日14:00内閣府情報)

人的被害 死者:240人 負傷者:1,422人

住家被害 全壊・半壊・一部損壊:10,990棟

4. 天候

曇りのち雨雪 最高気温 5℃ 最低気温 1℃

5. 活動の実際

7:00 起床 ホットタオル配布・健康観察

8:00 朝食(配膳・下膳)

珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

9:30 ラジオ体操、換気

10:00 小中学校の校長先生と意見交換

キッズスペースの拡張

12:00 昼食(配膳・下膳)

14:00 支援物資(衣類・肌着・飲料水等)の整理

15:30 ラジオ体操、換気

16:00 洗濯物干し場の仮設置

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

18:00 夕食(配膳、下膳)

19:00 大谷小中学校本部関係者 meeting

20:00 健康観察、避難者とコミュニケーション

21:00 消灯、適宜対応

22:00 記録

6. 結果と考察

[身体面]

- 夜間対応:3時半頃、自宅で飼い犬に手足を噛まれて出血された方が小学校グラウンドに自力でいらっしまった。救命士による止血処置のあと、待機の救急車で病院搬送された。
- 本日夕方より雨から雪に変わり、一段と冷え込んでいる。明日以降、感冒症状の出現に注意する必要がある。
- 家の片付け中にガラスで指を切ったり、釘で額を切ったりする方が発生している。けがなく片付け

を進めていただけるように声かけを実施していく。

[心理面]

- 現在子どもは高校生まで含めて7名ほど滞在している。前日に設置したキッズスペースを本日さらに拡張した。夕食前には子どもたちと学校の先生方が一緒に遊んで利用されていた。他にも子どもたち同士で明るく遊んだり、看護師や千葉県職員に人懐っこく話しかけてくる様子があり、落ち込みなどは見られないが、時折地震の時やこれまでの経験を口にすることもあり、それぞれの思いを傾聴しながら今後も見守りを継続していく。
- 学校の先生方、校長先生も、子どもたちと頻回にコミュニケーションを取られており、笑顔が絶えない。一方、個別にお話をうかがうと、これまでのご苦労、複雑な思い、心に秘められていた葛藤を共有いただくこともあり、教育環境と生活環境の共存のあり方を模索されていた。引き続き、学校側と生活者側の双方の思い、意向をうかがいながら、一緒に今後のコミュニティのあり方を検討し、両者の意思決定を支援していく必要がある。

[社会面]

- 本日平日でお勤めに出る方が多く、日中の滞在者は2名だった。そのうちのお一人がそれに驚いて「自分もいつまでもここにはいられないな」とつぶやいておられた。ご自宅に戻られる日まで交流スペースは本日も食事前後や夕方の利用者が多く、臥床時間の減少や避難者同士の交流促進に役立っているように見受けられた。
- 校長先生より、児童と避難者の交流機会についてご提案いただき、明日からは体操や清掃といった共通の時間を共に過ごしていけるよう活動の調整をはかっていくことで、今後のコミュニティのあり方を一緒に作り上げていく必要がある。

[衛生面]

- 本日も、床の水拭き清掃を実施した。トイレ、手洗い場などは変わらず清潔に保たれている。引き続き清潔な居住環境の整備を行いながら、二次的な健康障害の予防を図る必要がある。
- 避難者よりニーズのあった洗濯できる環境を整備するために、避難所内の洗濯物干し場の設置を検討し、まずは下着類を干すための場として、男性用、女性用の2つをポップアップテントで設置した。今後は洗濯機を稼働させ、実際に干し場を使用していただきながら場所や方法を評価し、改善していく。

[環境整備]

- 本日より学校が本格的に再開した。子どもたちが安全に活動できるよう、よく通る廊下に山積みになっていた支援物資を分散し、移動させた。そのうち、段ボールに入っていた衣類・肌着類は色やサイズで整理しなおし、選びやすいように配置した。今後も学校児童と避難所利用者の両方に良い環境となっていくように、関係者間で話し合いながら改善していけるよう調整をはかっていく必要がある。

写真. 空いていた部屋を活用して支援物資を整理



写真. 多くの先生、児童で賑わう卓球台



※2/3 活動報告に掲載した部屋

写真. 避難者憩いのお風呂を千葉県職員と協働して悪天候から保護

